

## ●春日部市民文化講座（第32回）

◆日 時：2020年1月29日(水) 10時（ぼぼら春日部4階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「私と茶の湯 ～江戸千家の茶の湯～」

講師：香田 寛美（江戸千家涓白流茶道教授）

◆ゲスト紹介：《前掲と同じ》現在は再任用職員で豊春第二公民館勤務。

## ■私と茶の湯 ～江戸千家の茶の湯～

## 1. 江戸千家の興り「江戸千家の流祖・川上不自」

川上不自は、ちょうど300年前の1719年に生まれ、数え年で89歳になる1807年に亡くなられた方です。川上不自は、表千家七代如心齋天然宗左に入門して千家の茶道を学び、32歳で江戸に移り千家の茶の湯を広め、江戸の感性である粋とか、明解さを取り入れた茶風で江戸千家の祖なった人物です。

- ・享保4年(1719年)、紀伊新宮藩の水野家の家臣であった川上五郎作の次男として生まれました。ということで、元々は武士の出自でございます。
- ・16歳で表千家7代如心齋の門下となり、茶の湯修練の式作法である「七事式」を如心齋が弟の裏千家8代又玄齋一燈宗室、さらに大徳寺の大龍宗丈和尚(341世)、無学宗衍和尚(378世)などが制定した際にもその中枢にあって参画しました。
- ・27歳(1745年)に如心齋より「茶湯正脈」を授与され、32歳で「真台子」を授けられました。
- ・32歳(1750年)に如心齋の「江戸に千家の茶を広めたい」という意を汲んだ不自は江戸に移ります。江戸に帰府した不自は、水野家茶頭職としての活動を始め、江戸の武家社会に千家流の茶を伝えます。駿河台に茶室 黙雷庵(もくらいあん)、後年神田明神境内に蓮華庵と花月楼を建てて門戸を開き、皇族・大名・旗本をはじめ、豪商、市井一般など多くの社中を集めました。
- ・その後、田沼意次のほか大名の島津氏や毛利氏が入門するなど、不自による千家の茶道が江戸に広がり、後に江戸千家と言われるようになりました。
- ・55歳(1773年)になった不自は嗣子自得齋へ水野家茶頭職の家督を譲る。京都修行時代に師から授かった「宗雪」の安名を自得齋が名乗ることになり、この時以後、やはり京都修行時代に玉林院大龍宗丈和尚より授かった「孤峰不自」と名乗るようになりました。
- ・不自は活躍の場をさらに広げ、江戸の町人文化の影響を受けながら、京都とはまた違った江戸前(粋、明解さ)の茶風を作り上げ、江戸の一般庶民の間にも広めていきました。
- ・文化4年(1807年)、89歳で江戸の隠宅であった水野家下屋敷に置いた蓮華庵で死去しました。墓所は台東区の安立寺となっています。

## ■江戸で千家の茶道が広まる

1716年に8代将軍徳川吉宗の政治が始まります。先ほど、川上不自の経歴をご紹介しましたが、もし8代将軍に吉宗がつかなければ江戸千家は興らなかったかも知れないと思うのです。江戸千家の祖・川上不自は紀州藩江戸詰家老職の水野家の家臣で主君の指示で表千家へ弟子入りしたことです。もう一つは、江戸に帰府した不自は、水野家茶頭職としての活動を始め、江戸の武家社会に千家流の茶を伝えた。現在、各地に江戸千家の茶が伝承されているのも、当時江戸に集る大名やその家臣により不自の茶が受け入れられ、各々の国に持ち帰られたことが上げられます。1772年に田沼意次が老中になりますが、この人も川上不自から茶道を指南された一人です。

## ■江戸の茶の湯文化が開く

1804年から1830年まで続く文化文政時代が、江戸を中心とした町人文化、浮世絵や滑稽本、歌舞伎、川柳など、現代に知られる江戸期の町人文化の全盛期となっていくのです。江戸千家も、川上不自門弟の川上宗雪による江戸千家、川上宗仕による表千家不自派、川上涓白による江戸千家涓白流などによって広められていきました。

## ■江戸千家涓白流について

この江戸千家涓白流が、私の師事する流派です。先代お家元から良く言われたことは、「江戸の粋を感じさせる点前を心がけなさい」ということでした。床にかざる花、道具組などで簡素なものの中に美しさを感じられるようにと…。当流は5代までが川上家、6代から岸田家に引き継がれ現在9代が継承しています。私は当代9代と大学の同級生で先代に師事して43年にわたり茶の湯を学んでまいりました。まだまだ未熟、これからも勉強の日々です。



皆様に私の流儀のお話をするために、改めて勉強をさせていただきました。感謝！